

PRO-LIFE

中絶に反対する運動

1999年12月 No.110

胎児を守る運動

クリスマスといのち

長崎大司教・島本要

聖年の開幕の日でもあります。

* * * * *

ベトレヘムの羊飼いたちに、「救い主が生まれた」と、その誕生が告知されたイエスは、「わたしに来たのは、羊(人々)が命を受けるため、しかも豊かに受けるためである」(ヨハネ 十：10)と証言され、ご自分の受肉の秘義が目的とするものは何であるかを明らかにされませんでした。神の独り子は、人間のいのちの奉仕者と成るために人となられたのです。「良い牧者」イエスの誕生が最初に羊飼いたちに知らされたという事実は極めて意義深い神のはからいだったと思います。羊飼いは羊のいのちの養護者だからです。イエスはいのちに仕える人として生涯を捧げられました。

「夕方になると、人々は悪霊に取りつかれた者を大勢連れて来た。イエスは言葉で悪霊を追い出し、病人を皆いやされた。それは、預言者イザヤを通して言われたことが実現するためであった。『彼はわたしたちの患いを負い、わたしたちの病いを担った』(マテオ 八：16-17)。神の国の福音を宣べ、回心して福音を信じるよう呼びかけられたイエスは、癒しの業も行われます。それは、人間に対する神の思いが、悪霊の支配からの自由と

健やかないのちの営みであることを示すためです。どんな人であれ、「人が生きること」、これが人間に対する神の思いなのです。癒しを通してイエスは、ご自分が人間のいのちに奉仕する者として神から遣わされたことを証しされたのです。

イエスが疾病、障害等で傷ついた肉体のいのちを労わり大切にされたのは、肉体のいのちも、精神のいのち、また、霊のいのちと同様、神によって造られたいのちであることを他の誰よりも、よく知っておられたからです。

人のいのちは只一つのいのちですが、その営みは緊密に結ばれた三つの次元において展開されます。霊のいのち、精神のいのち、そして肉体のいのちです。前二者は肉体のいのちを基盤とし、道具として営まれます。「健全なる精神は健全なる肉体に宿る」と言う諺は肉体と精神の緊密な関係を表現した格言です。肉体のいのちと精神のいのちは共に、霊のいのちの完成、すなわち神のいのちへの参与によって完成されます。換言すれば、地上における人のいのちは、神のいのちへの参与によって完成されるべく召されたいのちなのです。ここ

に人のいのちの神聖さと侵かしがたさがあるのです。

イエスによって奇跡的に癒された人たちはその後、患いそして遂に死んでいきました。イエスは「より豊かないのちを得させるため」と発言され、ご自分のいのちへの奉仕は肉体のいのちへの奉仕だけではなかつたことを明言しておられます。「豊かないのち」、これは神のいのちへの参与によって得られるいのちの充満なのです。それをイエスはご自分の死と復活を通して人々にもたらしました。「わたしは良い羊飼いである。良い羊飼いは羊のために命を捨てる」(ヨハネ 十：11)。イエスは「ご自分のいのちを捨てること」によって、永遠に尽きることのない神のいのちへの参与を人々にもたらしたのである。これがイエスが生きられたいのちへの奉仕の極みなのです。

クリスマスは、

いのちの奉仕者として世に來られた

神の子イエス・キリストの誕生の記念です。今年のクリスマスはキリスト誕生二千年、大

神がこれ程大切にしている人のいのちであるにもかかわらず、いのちに対する現代人の感覚はむしろ脅威的です。多くの国で墮胎と安楽死は合法化され、幼児殺害、幼児虐待など、身震いする程痛々しい犯罪が犯されています。

日本の厚生省は今年の六月、経口避妊薬ピルの使用を認可しました。昨今、英国では低用量ピルの副作用の疑いで死亡した女性の遺族が製薬会社や医師を相手取って集団訴訟を起こしています。このような時、避妊薬ピルの使用を認可した厚生省の政策は狂気の沙汰としか思えません。

今日、種々の脅威にさらされている人のいのちの奉仕者としてイエスはわたしたちを世に遣わされました。「いのちの福音」と題した現教皇の回勅が支持している通り、二一世紀はいのちに奉仕する福音の世紀です。



ガン宣告と妊娠

スーザン・ディルマン

木曜日の朝8時40分、ここにまた一人、小さな赤ん坊が生まれた。お金持ちの家に生まれたわけでも、名家に生まれたわけでもないジェシカ・ジェーン・ス・ティルトンの誕生は、当然のことながらニュースにもならなかった。

この赤ん坊がほかと違うのは、生まれてくる経緯が普通ではなかったことにある。この俗世間で、宗教への深い信心、はかりきれない強さ、自己犠牲と希望の生きた象徴として、ジェシカは生まれてきた。母親のジェーンは乳ガンに侵されていて、もう5年生き延びたかったら、ジェシカを産むことをあきらめるべきだと医者に言われていた。

ガンが発見されたのは、妊娠初期のことだった。医者は、中絶を勧めた。中絶すれば、ガン細胞が餌にしているホルモンの量も減少するし、赤ん坊の存在を考えないですむのなら、積極的な治療ができる。だが、ジェーンとトッドは中絶を選ばなかった。

「病院ではこう言われたよ。奥さんを助けたかったら、お子さんをあきらめるんだね。だけど僕はこう言った。中絶はしない。

何かほかに方法は？」これは、トッドが新聞記者に自分達の体験談を話した時の内容である。

「僕たちが選んできた方法の中で、中絶をしなかったことが一番賢かったね。」これはジェシカがインディアナ大学病院で生まれた数時間後のトッドの談話である。

夫妻は、子どもを産むために、バージニアからこの病院までやってきた。いずれは二人でバージニアに戻る予定で、トッドは内科医として、秋頃開業するだろう。専門知識と情報網を駆使して、トッドはガンを発病した妊婦の妊娠を取り扱った例をあちこち探した。最終的に、ジェーンの治療法と相談して、初期の化学療法を行うことにした。

「僕たちは、赤ん坊の命を守りながらも、ジェーンの命も助けようとしていた。ジェーンだって死にたかったわけじゃないし、僕だってジェーンには生きていてもらいたかった。」

ジェシカの命もまた脅かされていた。母親のガン細胞を一刻も早く攻撃するために、出産の時期を6週間も早めることに

なった。ジェシカは現在順調に成長している。自分で呼吸し、哺乳びんからミルクも飲んでる。おそろしく1週間もたないうちに、退院できるだろう。しかし、胎児期の化学療法の影響で、ジェシカが将来白血病にかかる可能性もある。それで、病院は、ジェシカにもガン治療が必要になった場合を考えて、健康体のうちに、赤ん坊のへその緒から血液を採取して保管している。薬剤師でもあるジェーンは、骨髄の移植手術を受けなければならぬ。

「子どもたち（夫妻には18ヶ月の男の子もいる）がいるからこそ、生きたいという気持ちが強いわね。自分で育てて、子どもが大きくなるのを見たいもの」とジェーンは言う。

ジェシカの出産は、そのための一ステップに過ぎないと彼女は言う。

骨髄移植は、化学療法の影響を受けられないようにするためである。化学療法の結果、免疫力が極端に低下する可能性がある。ちよっとした風邪でさえ、死にいたるかもしれない。また、ジェーンのようなガンの場合、

5年間生存できる可能性は、20パーセントしかない。

「出産が終わった今、彼女に生き延びるチャンスがどれだけあるかわからない。成り行きを見守るしかないのさ」とトッドは言う。科学のお陰でもいい、奇跡でもいい、ただ生き延びられるよう、彼らは神に祈るだけである。だが、願いどおりにならない場合の心の準備も、彼らにはできている。

「どちらの結果になっても、それは神の思召しだと思おう」トッドは静かに語る。

「だからといって、苦しんだり悲しんだりしないわけではないけどね」夫妻は、これまでも辛く苦しいときを経ってきた。「だけど、悲しみや苦しみの最中にこそ、本当の幸せや本当の希望が見つけられるのだと思う。僕たちには重過ぎる課題だけど、神には神のお考えがあるんだろうね」

「僕のほんとの望みは、僕とジェーンを見て、人が神の存在を感じ、神の存在にもっと興味を持つてくれることなんだよ」

「ジェーンと僕は、生まれて、そして死んでいく。ほかのみんなもそうだ。だけど、神は違う。神はいつもいる。神は、永遠の存在なんだ」

婚外セックスは

真実の愛と矛盾する

世の中には、セックスをすることを、「メイキングラブ」と言う人もいますが、それは正しい表現ではありません。本当の愛とは与えるものであり、すべてにおいて相手のために最善を尽くすことです。しかし、婚外セックスは、相手に与えたいという気持ちではなく、相手から得たいという気持ちから起こることなのです。

ところで、あなたは自分の子どもを愛していますか？まだ生まれてもない子どもを愛しているかなんて、想像するのが難しいかも知れませんが、でも、まだ見ぬ自分の子どもをすでに考えている若い人はたくさんいます。彼らは未来の家庭、未来の家族を待ち望んでいます。真実の愛を抱いている人ほど、自分の未来の配偶者や子どもがどんな風なのか、関心があるものです。そして、未来の家族に出会う前から、子どもが生まれる前から、自分自身を家族に捧げます。

ある日、気がついたらあなたには冷たい配偶者と怯えた子どもたちと不幸な家庭が待っているかも知れません。その時、若い頃にもっと家庭を大切に考えていたら、と後悔してももう遅いのです。

未来の家庭を、より現実的に考えるには、自分が育ってきた家庭を思い浮かべると良いでしょう。以下のような点を考えてみてください。あなたの両親は、配偶者をよく考えて選んでいましたか？二人は、生涯を通じて深く愛し合っていましたか？子どもたちを愛し、子どもたちのために二人で協力していましたか？また、以上の点はあなたにとってどれだけ大切なことですか？幸せな子ども時代を過ごした人ならば、みなそれらがいかに大切なことが知っているでしょう。そして、不幸な子ども時代を過ごした人もまた、そのような家庭に育ってあれば、まったく違っただろうと言っているでしょう。

あなたなら、どちらの道を選びますか？決めるのはあなた自身です。

私の小さな心臓

毎晩ベッドで横たわっている。まわりがあまりにも静かなので、日ごろは気づかない自分の心臓の音が聞こえてくる。開け放った窓から吹き込む涼しい風が、頬をなでる。その新鮮な空気を吸い込み、私は神にこの命を感謝する。

この小さな心臓は、私を生かし続けるため働き続けている。左のあばら骨の奥にある小さいけれど力強い臓器。それは私の体内で血を循環させるポンプの役目をしている。私の体の中心をなすもつとも重要なこの臓器が、私を維持している。

「そこで主なる神が地のちりをとって人間を形づくり、鼻の穴に命の息吹を吹きこまれたとき、人間は生きるものとなった。」(創世の書 一一：7)

「私はどうして生まれたのだらう」という疑問がよぎることがある。そんな時、私は心臓の音に耳を傾ける。そして、自分がここにいるには理由があり、それは神のご意志によると思う。だから、私は、誕生日にはまた一つ歳がとれたことを必ず感謝する。

数々のすばらしい出来事の間には、間違いを犯したことも、

苦しんだり悲しんだりしたこともあった。でも、その経験から大事なことを学ぶことが出来た。胸の奥深くでは、「神を愛する人々すなわちみ旨によって召し出された人々のためには、神はすべてをその善に役立たせたもうことを私たちは知っている」という(ローマ人への手紙 八：28)を、私は守り、信じぬいてきたから。

働き続ける私の心臓は、自分の体を大切にしなければ、神が意図された人間としてあり続けることができないと私に教えてくれる。たとえば、疲労すると忍耐力が低下し、私はめそめそしがちになったり、理性や道理をわきまえなくなる。心臓が送ってくる危険信号を無視し続けると、体の免疫システムが機能しなくなり、病原菌やウイルスによる風邪やほかの病気にかかりやすくなる。

心臓は、人生、夫、子ども、家族、友人、世の中のすばらしいことへの愛情を表現する。私にとって、生きていることがこの地球上で一番すばらしいことである。神がこの心臓を与えてくれなかったら、このすばらしい特権を楽しむこともなかったらう。

心臓は私の味方である。私がほ

かの人を助け、心臓は私を助けしてくれる。心臓の存在を当たり前と思ひ、それがあつたことすら意識してないときでも、心臓は自分の役目を黙々と果たしている。心臓は奇跡的な存在である。生きていることへのパスポートである！

無数の考えが私の胸をよぎるときも、心臓は静かに鼓動している。だから私は、毎日感謝しながらせいじつばい生きる。この世に存在できることに敬意を表しながら。私の生ある限り、なりうる限りの人間になり、できうる限りのことをしたい。この生は、私の特権であり、名譽だから。

本当に小さい種が、赤ん坊へと姿を変え始めたときから、私の心臓は私が人間であることの根底となった。だのに、いつたいどうして人の心臓を他人が止めたりできるのだろうか。

リー・タータニアン

貞潔は中絶反対精神に必然的なものである

ある兄弟や姉妹が裸で今日の食べ物さえないとき、あなたたちの中のだれかが、「心安らかに食べなさい。温まって十分食べよ。」と言うだけで体に必要なものを何も与えなかったら、それが何の役にたつだろう。(ヤコブの手紙 二：15)

道徳上の見地から見た自然な家族計画(NFP)と産児制限の人工的な手段との違いの一つは以下の通りです：NFPは、夫婦が貞潔の美德を彼らの結婚生活のなかに形成することを要求し、人工避妊を禁止するということです。貞潔とは、私たちが人間として己の性的欲求を制御する力です。結婚生活の中の貞潔は、姦淫と近親相姦を防ぐこと以上の意味があります。それは、夫婦関係の完全性と意味を尊重することです。それは、私たちの多産を神の贈り物として尊重することであり、それを薬、器具、或いは外科医のメスによって排除しないことです。

ごく少数の人々しか、いかに貞潔が必要かということに気が付いていません。しかし、ここでちょっと性革命のことを考えてみて下さい。これは、貞潔に対する

反乱であつて、その反乱は今もあり、そして、この反乱の結果は痛々しくも明らかです：未婚の妊娠と、中絶、エイズです。罪の結果が死であるというのは紛れもない事実なのです。それは、生まれて来ない胎児の身体的死と、中絶を行った人たちの精神的な死のことです。貞潔は人間の生命の最も初歩の段階で生命を保護するので、貞潔とは中絶反対精神の「基礎」なのです。

しかし、もし私たちの世界に貞潔が必要だと信じてても、それを奨励したり教えたりするための行動を何もとらない人がいるとしたら、何の効果もありません。もし、今以上に貞潔を奨励し教えるための行動が何もなされなければ、世界中全ての中絶反対運動は台無しになってしまいます。これは、決して中絶反対運動に携わる全ての人が教師にならなければいけないということではありませんが、その方向へ持つていく更なる努力が必要だという意味です。ですから、あなたの信念を行動に移し、貞潔の教師になつてもいいのではないのでしょうか。それは、決して難しいことではありません。

おなかの子へのクリスマス

クリスマスには普遍性がある。「恐れることはない。すべての人々のための大きな喜びの知らせを告げる。今日、ダビドの町であなたたちのために救い主が生まれたもつた、すなわち主キリストである。」(ルカによる福音書 二：10-11)

達の最も幼い兄弟姉妹にも向けられている。

「恐れることはない。すべての人々のための大きな喜びの知らせを告げる。今日、ダビドの町であなたたちのために救い主が生まれたもつた、すなわち主キリストである。」(ルカによる福音書 二：10-11)

事実、それらはこのような子どもたちこそ向けられていると言つてもいい。なぜなら彼らこそが最も助けを必要としているからである。私達は自分を救うことなどできない。しかし少なくとも救いを求めて祈りを捧げることができるし、どこにそれを求めたらいいのかも知つていない。ところが、私達の幼い兄弟姉妹たちは、祈りを捧げるとき、よい知らせを聞く前に中絶によつて殺されてしまうかも知れないのである。

イエス・キリストは全ての人のために人となられた。イエスは誰をも除外なされない。クリスマスがいいところは、あらゆる時と場所、そして人々に平等にあること。「世界に喜びを！」

実際、この喜びはあまりにも普遍的なものであるため、自然さえもそれをわかちあつてい

「おおかみは子羊とともに住み、ひょうは子やぎのそばに横たわり、子牛と小じしはともにみ、子どもが彼らを導く。」(イザヤの書 十一：6)。

初めはよい知らせは偉大な権力者にではなく、身分の低い人々にもたらされていた。私達のために生まれられたイエスの宣教の道は、社会の外側にいる人々をいつも探すことだった。

以上のことから、避けることのできない結論に到達する。つまり、クリスマスはまだおなかにいる子どもたちのためにも存在するということである。救い主キリストは、母親の子宮で生きて

いる子どもたちのためにも降りてこられた。福音のメッセージは、私

達の子どものためにも降りてこられた。福音のメッセージは、私

達の子どものためにも降りてこられた。福音のメッセージは、私

きない、神の人々のことである。

救い主であるキリストを快く受け入れることは、神が私達に対する使命を達成するためにもつた義務をも受け入れることである。預言者の言葉によれば、神は地上に「正義」をもたらす。そして、聖書によれば、これは神が救いを求めている人々のために

介入し、束縛されている人々を解放してくれるということなのである。

もちろん、これは私達すべての者に当てはまる。私達は、罪や死から逃れることができず、自分を救うことができないのだから。

しかし、子宮にいる幼い兄弟姉妹についてはさらにこのことが言えるだろう。特に法廷が「人という言葉にはおなかにいる子どもは含まれない。」という判決を下してからは(一九七三年ロウ対ウエイド判決)。

美しいクリスマス賛美歌、「オー・ホーリー・ナイト」で次の

僕は信頼に応える男

僕のガールフレンドの両親は、僕を信頼してくれています。彼らを裏切るうとは思いません。

僕の妹に対して他の男がそうであつてほしいように、僕もガールフレンドの意向を尊重しています。

僕は女性を尊敬しています。なぜなら僕の母も女性だからです。母に知られたら僕が困るようなことを、ガールフレンドにはしてほしくありません。

ガールフレンドは、僕に交際の楽しさと光栄を与えてくれま

よつなことが歌われる。『神は私達に互いを愛することを教えたもつた。神の法律は愛であり、神の福音は平和である。奴隷は私達の兄弟だから、鎖は壊されるだろう。そして、神の名のもとで、すべての圧制は終わるだろう。』

おなかの子どもへの圧迫をやめさせる努力をしない限り、私達のクリスマスはやつてこない。そして、その子どもたちにも救い主キリストが生まれたことを知らせてあげよう。

フランク・パヴォーン

らしさを知つてほしいのです。神はどこにでもいらつしゃつてすべてを見、すべてを聞いておられます。暗闇は僕を人間からは隠してくれませんが、神から隠れることはできません。

もし万が一、僕が自制心を失つて、その結果ガールフレンドが妊娠したとしても、お腹の子を殺すように彼女に圧力を加えるようなことはしません。

高校生

医者達へのメッセージ

我々医者仲間の多くは、自分達が胎児の命を守ろうと中絶反対を声高に叫び始めればどういふ事になるだろうか知りたかと思つています。そこで、中西部に住んでいるある専門家からの手紙をここに紹介します。

「私のはつきり自分の意見を述べ始めるのは少しこわかったのです。どんな反響があるか確信がありませんでしたし、話すと患者が減ってしまうのではないかと不安でした。しかしながら、毎日胎児とかかわり、医療スタッフとして

多くの危険性の高い妊娠を扱っていますと、中絶は全く我慢ならぬものだと思つたのです。そしてさらに、私のキリスト教徒としての信仰のために、私は黙つて何もせずに傍観しては行かなくなつたのです。こうして私は、自ら危険に飛び込んだのです。

私は地元の医師会の公報誌に投稿して中絶反対の論文を書いたのですが、その反応が圧倒的に私の意見に賛同するものが多かったと、なかでも医者仲間からの反応がそうであつたことは嬉しい驚き

でした。私はまた、自分達が長い間口にしたかた事を活字にしてくれたとたくさん励ましの手紙を医者仲間からももらいました。そして、そのときの私が踏み出した一歩がほかの人達にも勇気を与えたのです。」

彼の手紙は続きます。「この論文に続いて地元の新聞に論説を依頼されました。私は論説を載せ、その新しい論説に対して世論からのものすごい反応がありました。そしてそれらすべてが肯定的なものでした。このことで、私はさらに自分の意見を述べる勇気が沸いてきました。私は、一月二十四日に行なわれるこの町の『中絶反対デモ行進と集会』に参加するつもりです。」

私は主に医学的観点から、論理的に書いています。そして、はつきりと中絶賛成の立場をとっている医者仲間までが私の主張を認めてくれたことを嬉しく思つていました。というのは、そのような医者の中に、あの記事を読んで考えさせられたとか、ある夫婦が中絶を思い止まつたとか私にコメントしてくれる人さえいたからなのです。」

彼はさらに続けます。「私が住んでいる地域社会は、医者の方ほとんどは基本的に中絶反対です。ほんの少しの医者によって、すべての中絶がされているのです。その中絶医たちは、医者からだけでなく地域社会からもプレッシャーを感じているのです。中絶を行なっている婦人科医に問い続けたくなくて、私達の医院にかわつてくる人を私はたくさん診察しています。ここでは中絶医に社会的、経済的圧力が増加する風潮があり、私はたいへん励みに思っています。ここ二、三ヶ月の間に、中絶医の人物二人が、その圧力のために中絶を行なうのをやめました。」

J.C.ワイルキ医学博士

クリスマス・シーズン

細長い布にくるまった純粋無垢なその赤ん坊は、飼葉桶の中で何か深く思考しているようだ。神御自身が質素であらせられるように、我々も又質素であれという神の思召しが真に理解できる羊飼いと羊達が自分を崇拜するため最初に会おう人々となることを赤ん坊は気づいているようだ。つまり、天と地の王は、最も卑しい環境の下、我々のところに来て下さった。そして、後に彼は成長して各地を歩き、人々に教えを授け

た。主が我々一人一人を愛して下さつたように、我々も又お互いを愛するようにと。プロ・ライフ活動家の私達にとつて、一年のこの時期になるととりわけ意味のあることとして思ひ出されることである。我々は、何よりもまず、愛さなければならぬ。神を、主を愛さなければならぬ。家族を愛し、大切にし、氣遣い、そして彼らに必要とされる時に共にいなければならぬ。子どもを産むことを恐れている人々

に手をさしのべ、母親であるという事が、子どもの死という形で短い経験として終わるのでなく、祝福に満ちたものとなるように、言葉だけではなく行為で援助しなくては行けない。

そして、もちろん最も大事なことは、色々努力をしてきたが、我々の社会に巻き込むには至らなかつたアンチ・プロ・ライフ活動家達をも愛すべきだという事である。我々は、彼ら一人一人のために祈り、彼らの心をやわらげて下さるよう神に願ひ、彼らとてくわした時のため、神が我々を愛して

下さると同じやり方で彼らに接する事が出来るよう、準備しておかなければならない。我々は批判するため存在しているのではなく、奉仕するためにあるのだから。もしどうかして時をさかのぼつて、あの生誕の場に居合はず事が出来、羊飼達と一緒に飼葉桶に近づき、主の御前にひざまづく事が出来たら、主は私とそこでお会いになつた事をお喜びになるだろうかと心の中に疑問がわき起る。主は私という人間を主に仕える者でありたいとあらゆる努力をしている者と見て下さるだろうか。それとも、私の心の奥底に

今、このクリスマスの季節に我々は王なる主に近づこうとしているわけだが、果たして主は我々をどうご覧になるか考えてみよう。そして、かつてやってきたよりももっとプロ・ライフであらんと、今一つ努力してみようではないか。この努力こそ最も素晴らしい贈り物になることと思う。飼葉桶に眠る聖なる赤ん坊にとつて。主の中の主、王の中の王である方にとつて。

ノボトリー・ジェリー (Novotry Jerry)

ノボトリー・ジェリー (Novotry Jerry)

中絶の生き残り症候群

小児科医であるマリ・ピーターズ・ネイ博士は、中絶が、残った兄弟姉妹に影響を及ぼす様子を特に懸念してきました。彼女は、HLC会議で発表した夫の見解と研究について詳しく述べました。夫のフィリップ・ネイ博士は内科医であり、小児精神科医であり、登録されている正規の心理学者であり、作家であり、治療と研究のための両方の施設を備えた「中絶と幼児虐待の調査および回復のための国際研究所」の創設者であります。フィリップ・ネイ博士は、生き残った兄弟をいくつかのカテゴリーに分けています。

一、中絶後に生まれてくる子どもは、中絶された子ども自身の人生のうえに、中絶された子どもの分の人生まで生きようとします。母親はその子を溺愛するか、少しも愛さないかのどちらかです。子どもは、親への堅固な愛着心を持てず、不安定な愛着心を持つようになります。子どもは自分の存在が不安になり、その結果として、その子の一生が変わってしまつたのです。「望まれた」ように生きることがとても難しいのです。

二、カイン・チャイルドもいます。その子の兄弟が殺されたときにすでに生きていた子どもがそう呼ばれています。子どもたちは、母親が妊娠していることを告げられ、中絶することに同意するかどうか尋ねられているのです。生き残った方の兄弟はしばしば、自分の兄弟の一人かそれ以上が、自分が生まれる前から中絶されたことを本能的に知るので、カイン・チャイルドは、おそらく自分が（腕白や厄介者でなくて）もっと良い子だったら、両親は自分の兄弟を生かしていただろうにと思い込み、どうすることもできないほどの罪悪感を感じるのです。兄弟の死の原因が自分にあると思ひ込むためです。

中絶で生き残った子どもは、歪んだ愛情感を持っていきます。両親は、生き残った子どもをあまり愛しているの、これ以上家族を大きくする（さらに子どもを生む）ための愛が残っていないと言いかもしれません。生き残った兄弟は、もしこれが愛というものなら、愛など欲しくないと思つたのです。これらの子どもたちは恐怖心と深い不信感を抱いているのです。もし彼らが自分の親を信頼できなければ、他の誰も、また自分自身も信頼できないのです。

中絶で生き残った子どもたちは深く傷ついています。ネイ夫妻は私たちに、子どもたちが予めセットされたコンピューターをもって生まれてくるのではないという事を思い起させてくれるのです。子どもの脳に影響を与

(7ページへ)

死ぬ権利

不死の病にある人は、自然に死ぬ権利が与えられています。なぜなら、治療を拒否する権利があるからです。この権利について、もっと患者や医師に気付けさせるべきかもしれません。それでも、殺される権利は誰にもありません。

[511] 赤ちゃん：最初の十ヶ月

[515] 経口避妊薬：ピル

注文： 1 - - - - 5 1部 = ¥ 100
 6 - - - - 20 1部 = ¥ 75
フルカラー 21 - - - 999 1部 = ¥ 50
 1000 - - 以上 1部 = ¥ 35

性教育の材料として、学校、教会、家族、産婦人科

【プロ・ライフニュース】

[101] 1部ご注文.....無料..... + 郵送料

【カラー・パンフレット】

[201] 生か死..... + 郵送料
 [202] 第二の処女..... + 郵送料
 [203] デート..... + 郵送料
 [204] どうするの?..... + 郵送料
 [205] "NO"という技術..... + 郵送料
 [206] ティーンの出産コントロール..... + 郵送料
 [207] パージンの瀬戸際..... + 郵送料
 [208] していましたか..... + 郵送料
 [209] 親権限と「10代の性」..... + 郵送料
 [210] 貞節のすすめ..... + 郵送料
 [211] 中絶行為は女性を解放しない..... + 郵送料

【ポケット・サイズ】

[301] 若い生命「1セット=カード+人形」.....30円 + 郵送料
 [303] 国際プロ・ライフ・シンボル・ピン.....200円 + 郵送料
 [304] 国際プロ・ライフ・ネックレス.....500円 + 郵送料
 [305] 胎児の人権宣言カード.....30枚=100円 + 郵送料
 [306] ミニソフィアAce エース(税別).....7,980円 + 郵送料

【ビデオ+ 本・日本語】

[401] 沈黙の叫び...(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
 [403] ビリングス・メソッド.....(VHS/Beta).....7000 + 郵送料
 [404] いのちーおくりもの.....(VHS).....13000 + 郵送料
 [407] 命美しいもの = one&only.....(VHS).....20000 + 郵送料
 [409] 聞こえる?天使の鼓動.....(VHS).....6000 + 郵送料
 [410] ビル先道国・英国からの警告...(VHS)...15000 + 郵送料

[500] (本) 生命問題に関する...(カトリックの教義)...2987 + 郵送料
 [501] (本) 自然な家族計画...(ビリングス・メソッド)...1000 + 郵送料
 [503] (本) プロ・ライフの旅.....300 + 郵送料
 [504] (本) 小さな鼓動のメッセージ.....1200 + 郵送料
 [505] (本) いのちをみつめて.....500 + 郵送料
 [506] (本) 命あるすべてのものに(マザー・テレサ).....650 + 郵送料
 [507] (本) 私の生命を奪わないで.....2300 + 郵送料
 [508] (本) いのちの福音.....1500 + 郵送料
 [509] (本) 小さき生命のために.....1300 + 郵送料
 [511] (本) 赤ちゃん：最初の十ヶ月...12ページ...100 + 郵送料
 [512]本 日本プロ・ライフ・ムーブメントについて.....300 + 郵送料
 [513]本 カトリック教会と日本プロ・ライフ・ムーブメント.....500 + 郵送料
 [514]本 神様は中絶をどのように言っておられるでしょう.....300 + 郵送料
 [515] (本) 経口避妊薬：ピル.....100 + 郵送料
 [516] (本) いのちの福音と教育.....1470 + 郵送料

パンフレット申し込は・・・

1 ~ ~ 5 1部 = 35円
 6 ~ ~ 100 1部 = 25円
 101 ~ ~ 500 1部 = 20円
 500 ~ ~ 以上 1部 = 15円

組み合わせは自由です

えるのは経験、特に感情的な経験なのです。彼らには絶えず、恐怖心の少ない世界に逃げ込みたいという誘惑があります。彼らは生きているのが悲しいために、神にしばしばを感じるようになりませう。

ネイ夫妻は、私たちが、人間の生態系の基盤を非常に傷つけていると主張しています。彼らの発表で議論された問題は、人間とは一体何者なのかという問題のまさに中核をなすものです。彼らは、私たちが非常に重大なものを勝手にいじっていると結論付け、それを元どおりにできるかどうか疑問に思っています。

す。

フィリップ・ネイ博士は、人類はたくましく強いけれども、私たちが生き残れるかどうかを決定するメカニズム全体を破壊しかねないデリケートなところもあると説明しています。私たちが、この微妙なバランスを勝手にいじり、死の方向に向かわせるならば、全てがおかしくなると予言しています。私たちは傍観者ではないのです。私たちはそのようなことを起こさせてはいけません。私たちは恐るべき問題に直面しています。それに立ち向かう用意ができていますか。

インターネットより

子どもを喜んで迎えるための祈り

天にましますわれらの父よ、今、私達は馬小屋のキリストの生誕を祝う準備に励んでいます。中絶で子どもの命を絶とうとしている世界中の母親が、その命はあなたからのお恵であることに気づくよう彼女らをお導き下さい。私達を決して孤児とはしておかないと言われた愛の呼びかけを彼女らにもお聞かせ下さい。

父よ、私に命を与えて下さったことを感謝致します。この命をあなたのご意志通りに使うことが出来るよう、これからもお助け下さい。

アーメン。

事務所便り

事務所のある教会の庭に、大きな銀杏の木があります。コンピュータに向かっていている目をちよつとそらして、疲れた目を休ませるとき、窓いっぱい広がるその銀杏の木に季節の移り変わりが伝わってきます。まるで、人生の流れのように、みずみずしい緑葉から、黄金色に輝く黄葉、そして、その黄色のはっぱも一枚また、一枚とひらりと散って、やがて、はだかんぼうの木へ…。皆様お元気でお過ごしでしょうか。

一九九九年も最後の月となりました。振り返って見ますと20世紀は「いのちには脅威」の年であった気が致します。世界中で戦争が起こり、罪もない人々が巻き込まれて行きました。また、交通事故死や自殺者の数も急増してきています。それに輪をかけて、先日、経口避妊薬ピルも解禁され、更に多くの、罪のない子どもが巻き込まれようとしています。

そんな時代の中で生まれた『日本プロ・ライフ・ムーブメント』は、皆様のお陰で全国の公立中・高等学校と産婦人科にも『赤ちゃん：最初の十ヶ月の旅』を同封してこの運動を知らせることが出来ました。第二回目は『ピル：その作用と安全性』を同封してPRしています。いのちの教育が心の根底に染み込んでいけば、その大切さが自ずから分かるでしょうから。皆様もこれらのパンフレットを使って、隣の方にお話しなさることは如何でしょうか。そして、また、金銭的な支えもよろしくお願い致します。

キリスト誕生二〇〇〇年の記念する年を迎えるに当たって、いのちの創り主である神のもとに一人一人がたちかえり、平和な心を保つことのできるようにと祈りながら、この一年に皆様から頂いた数々の励ましに感謝しています。来年もどうか、この「いのちを守る運動」を温かく支えて下さいますようお願い申し上げます。